

北海道教育委員会教育長 様

北海道小樽未来創造高等学校長 濱 下 昌 也

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 働きながら学ぶ意義を理解し、自らを高める態度を養う。
- (2) 望ましい生活習慣を身に付け豊かな心を養う。
- (3) 基礎・基本の学習を大切にし、自ら学ぶ態度を養う。
- (4) 生命の尊さを自覚し、健康と安全を心掛ける態度を養う。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育目標	・今年度大幅な人員の入れ替わりがあったため、再度全員で教育目標の共通理解を図った。	・教職員による自己評価、保護者・生徒に対するアンケート、職員評価制度による面談等を基に学校課題を共有し、学校教育目標実現のために取り組んでいる姿勢は評価できる。
改善方策	・学校評価の活用の推進 ・教務規程等の不断の見直し	・職員研修の更なる活用の推進 ・管理職と職員の面談の更なる推進
学習指導	・一人一人の能力に応じた「個別最適な学び」の更なる充実を目指し、授業改善に取り組んだ。 ・ICT機器を活用し、生徒が自分の意見をまとめたり、発表したりする機会を増やし、学習意欲の向上に努めた。	・多様な年齢構成、バックグラウンドの違いをふまえながら、丁寧な指導が行われていると判断できる。 ・普通教科の基礎学力の定着に係る取り組みが一定の成果を上げられたことは評価できる。
改善方策	・教育課程の不断の改善 ・基礎基本を重視した学習指導及び補習等の実施による学力ケアの充実 ・定期考査を実施しないメリットを整理し、評価の更なる工夫を図る	・ICT機器の活用をさらに深めるために研修を実施
生徒指導 いじめ	・玄関指導を全教職員で実施したことにより、生徒の様子を把握するとともに情報を共有することができた。 ・ピアサポートや思春期講話等の実施により、他者との関係性や悩みへの向き合い方等について学習することができ、大きな効果をもたらした。 ・学校全体が落ち着いた雰囲気を保てたことで、いじめ及び生徒指導事故ゼロに結びつけることができた。	・大きな懸念事項もなく、順調に生徒指導が行われたと判断できる。 ・生徒指導に係る日々のきめ細かな取り組みが、結果的にいじめ及び生徒指導事故ゼロにつながったと考えられ、大いに評価できる。 ・全教職員による教育相談は、教職員と生徒との信頼関係を向上させ、いつでも悩みを相談できる雰囲気が醸成されたと感じている。
改善方策	・いじめに対する全教職員による一貫した指導及び組織的な指導の充実 ・1年生の早い段階で、基本的な生活習慣を確立させる ・安全教育の推進 ・生徒理解と教育相談の更なる充実	
進路指導	・ハローワーク等、外部機関と連携することで、社会に出てから必要な能力について学ぶことができ、進路意識を高めることができた。 ・生徒個々の適性に応じた、きめ細かな指導ができた。	・小樽市や公共職業安定所との就職に係る連携は、生徒が自分に適した職業選択を行う上で有効な取り組みであるとして評価できる。 ・将来についての計画を立てられない生徒もいることから、4年間を見通した計画的なキャリア教育を行うことは、とても重要であると感じた。
改善方策	・将来のビジョンを考えさせるキャリア教育の推進 ・ハローワーク等、外部機関との更なる連携の強化 ・進路情報の収集及び進路開拓の推進	
健康安全 指導	・全教職員による教育相談はとても効果的で、重大案件に発展する前に防止できた事例もあった。 ・スクールカウンセラーと学校が相互に連携し、個々の生徒に適切な対応を取ることができた。 ・養護教諭と担任、管理職での情報共有が図れた。	・健康や安全に関する具体的な講話の実施や、気になる生徒への養護教諭によるきめ細やかな対応、スクールカウンセラーによる個々の生徒に対する支援はたいへん評価できる。これらの取り組みが、「命の大切さや健康で安全な生活を送ることに気をつけている」生徒の多さにつながっている。

改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの不断の見直し ・関係機関との連携 ・教育相談体制の更なる充実 ・情報共有の更なる徹底 	
信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で中学校訪問を実施できたことは大変良かった。このことが、学校体験入学に参加する中学生の増加に結び付いたと感じる。 ・NOTEやホームページを活用し、学校生活を広く発信できたことは大変良かったと感じている。 ・本校の教育活動が新聞等に掲載され、一定の評価が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学校評価アンケート結果によると、昨年よりも評価が高くなっているものが多い。これは、日々の学校改善による成果と考えられ、大変評価できる。 ・地域への広報活動、情報発信については、少数のスタッフで努力されているが、残念ながら成果は十分と言えない。ぜひ、お手伝いしたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやインスタグラム等、情報発信の工夫及び改善 ・地域及び小中学校との更なる連携の強化 ・職員評価制度の活用の推進 	
組織運営の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等においては、全員で協力し行事を成功させようとする意気込みが見られた。 ・2つの分掌が連携を図りつつ、それぞれが特性を生かしながら機能することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数による運営のメリットが表れたと判断できる。 ・職員会議や勤務形態の見直しなど、教職員の心身の健康を守る取り組みは評価できる。 ・アンケート結果の共有等、情報共有に取り組んでいる姿勢は評価できる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革のより一層の推進 ・校内組織間の情報共有の更なる推進 ・互いに協力し合う職場づくりの推進 	
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年間6回の校内研修により、教員としての資質能力向上に努めることができたと感じている。 ・管理職が週末や面談において、服務規律の保持や法令遵守を呼びかけているのは効果的である。 ・長期休業中の在宅勤務や計画的な休暇取得により、心身の健康を保持することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理学系や工学系の技術は日々更新されており、担当する教員の自主的な研修が極めて重要となる。報告を見る限り、十二分に達成できていると考えられる。 ・ICT機器の活用と授業改善に継続して取り組まれていることは評価できる。盗撮問題にも迅速に対応したことは評価できる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス意識を高める取り組みの強化 ・校内研修の充実 ・ICT機器の活用と授業改善の更なる推進 	
保護者、地域関係機関等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携は、電話連絡や面談等を活用しながら滞りなくできていたと感じる。 ・社会福祉法人との連携により、障害者スポーツや高齢者の目線による運動等、多くの体験を積むことができたことにより、生徒の視野が広がったと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何らかの事情を抱える生徒の保護者と直接面談する等、家庭と連携しながら生徒対応したことは、学校への信頼を高める取り組みとして大変評価できる。 ・学校祭で模擬店を出店する等、生徒と地域とのつながりを強める取り組みは、とても評価できる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやインスタグラム等、情報発信の工夫及び改善 ・地域及び小中学校との更なる連携の強化 	
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末は達成できている。 ・配分される予算が少なく、学習環境の整備が十分に行えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した学習環境の整備に引き続き取り組んでいただきたい。限られた予算の中、適切な施設設備の整備を行うためにも、現有施設や設備の状況把握にも努めていただきたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の維持及び管理の推進 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへの公表 ・学校評議員会 ・PTA役員会 ・PTA総会 	

3 添付資料

- (1) 令和7年度 自己評価書
- (2) 令和7年度 学校関係者評価書
- (3) 令和7年度 保護者による学校評価アンケート
- (4) 令和7年度 生徒による学校評価アンケート